

巨大イセエビが捕れました



大きなニシキエビを捕獲した浜岡輝一さん。普通のイセエビ(左)と比べると、その大きさに圧倒されます。

10月3日、熊野浦沖で立網漁をしていた浜岡輝一さんの網に、巨大なイセエビがかりました。正式には「ニシキエビ」という南方系のイセエビで、イセエビの中では最大種とされています。九州以北の採取はまれだそうで、珍しいニシキエビを一目見ようと、たくさんの方が漁港を訪れていました。通常、佐賀地域で獲れるイセエビは200〜300gのサイズですが、この日捕れたニシキエビは重さ約2・2kg、体長は40cm以上もあり、青や黄色のカラフルな体はいかにも南から来たエビらしい姿です。浜岡さんは、「小さいニシキエビが揚がったことはあるが、こんなに大きいのは初めて」と驚いていました。

入野駅で元気が出るイベント

大方高校2年生が総合学習の地域課題解決学習の中で、高知黒潮若者サポートステーション（黒潮サポステ）と一緒に「元気になるイベント in 土佐入野駅」を企画し、10月14日の鉄道の日に合わせて、駅前で「第1回入野ストリートユースフェスティバル」を開催しました。イベントは、在校生を対象に行ったアンケートで、回答の多かったライブ・ダンスを中心に、子どもからお年寄りまで世代を超えて楽しめる内容を目指しました。

当日は、地元高校生や、黒潮町、四万十市西土佐などから9組が出演し、スーパーバンドもゲスト出演。駅周辺には出店が並び、訪れたお客さんはおいしいものを食べながら、若者との交流を楽しみました。



若者の熱気があふれる「元気になるイベント」が、大方高校×黒潮サポステのコラボ企画として開催されました。

「はたフェス」今年も四万十

9月15日、四万十市入田河川敷で「はたフェス2012 in 四万十」が開催されました。昨年9月の四万十市、今年5月の黒潮町に引き続き3回目。幡多地域の食材を使った食べ物や特産品、工芸品など約100店が並び、ステージでは、ダンスやライブが披露され、サッカー場では少年サッカーも開催されました。午後から大雨に見舞われ、テントの足元が浸水したり、イベントが中断するなどのトラブルもありましたが、雨が上がりると再開。約8000人が訪れ、自然や文化を堪能しました。

黒潮町からは、カツオのタタキ、カツオたたきバーガーなどのご当地グルメや、佐賀北部地域協議会の若山楮ワークショップなどが出店し、多くの方が楽しめました。



上：黒潮町ブースにカツオ人間登場！
下：和紙を張った手作り竹ドーム。

大方高校が教育奨励賞を受賞

10月1日に「第27回時事通信社教育奨励賞（文部科学省後援）」が発表され、大方高校が全国で2校の優秀校に選ばれました。大方高校が平成17年度の開校当初より行ってきた「自律創造型地域課題解決学習」という、地域の人から与えられた課題（ミッション）の解決策やアイデアを提示する地域参画型の取り組みが評価されたもので、これまでこの授業では、「黒塩」や「カツオたたきバーガー」などのユニークな特産品が生まれています。

優秀校には表彰状と記念品のほか、副賞100万円が贈られました。同校では、この100万円を総合学習や地域との交流などに使い、地域に還元していきたいとのことでした。



昨年12月のアイデア発表会の様子。毎年大方高校の2年生が、地域の方々と協力していろんな課題に取り組んでいます。